

AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント

秋整枝

秋整枝は、摘採面を均一にならし、翌年の一番茶への古葉や木茎の混入を防ぐための作業です。翌年の収量や品質を確保するには、丁寧な整枝作業と、着葉量を十分に確保することが大切です。茶園の状態を観察し、各茶園に合った整枝作業を行ってください。

秋整枝の時期と位置

秋整枝の時期は、平均気温が18℃以下になる10月上中旬頃です。時期が早いと、翌年の一番茶が早まる。整枝し休眠まで充分な期間がとれ、越冬芽のアミノ酸含有率が高まり翌年の一番茶に好影響となる。などのメリットはありますが、あまり早い時期に行くと再萌芽したみる芽が霜に当たり、品質が低下するため注意しましょう。

【参考】2022年度管内ECセンサー平均気温…10月13日 17.26℃

葉層は8cm以上確保し、三番茶摘採園では摘採面を軽くならす程度、三番茶不摘採園では二番茶の摘採面より4～6cm上（三番茶の葉を2～3枚残す程度）で整枝しましょう。

また、寒害や凍霜害を受けやすい茶園や樹勢の弱い茶園では、秋整枝は行わずに越冬させ、幼芽を傷つけないように浅く春整枝を行います。秋から冬の着葉量が増えて光合成が盛んになり、樹勢回復効果にも期待ができます。

病害虫の防除

①10月上中旬（秋整枝後）

秋整枝後は赤焼病に注意してください。傷口から感染し、葉の褐変や落葉を引き起こすため、整枝直後に防除しましょう。台風が襲来している場合には、台風通過後すぐに薬剤を散布しましょう。事前対策には、防風垣や防風ネットの設置も有効です。

②10月下旬～11月上旬

チャトゲコナジラミやカンザワハダニなど発生状況をみて、防除を行います。300～400mlの薬液を、葉裏にかかるように丁寧に散布してください。使用する薬剤については、各地域営農経済センターや防除暦の情報を参考にしてください。



茶指導販売課 菊川 響